



巻頭言 ... 1
特集記事 ... 2 ~ 3
編集後記 ... 4

社会福祉法人 京都光彩の会 光彩だより 令和元年秋号

「光彩だより」2019年秋号 特別企画

若手座談会 ～ 真面目ガールズトーク♪この仕事のやりがいは？～

2019年4月から「働き方改革」が始動し、私たちの労働環境は大きく変わろうとしています。福祉の現場でもその影響を受けての取り組みが既にスタートしています。それと関連して若手職員の育成や定着といったテーマも、重要な課題の一つです。

そうした現状のなか、広報委員会の打ち合わせで「若手のスタッフはどんな思いで仕事に取り組んでいるのか聴いてみたいなあ…」というつぶやきからこの企画を実現しました。

巻頭言

対話を活発にして、 危機をチャンスに

脳は自然治癒力を持っているとされます。それを邪魔するのが心です。心は脳が休みたいと言っているのに警告を無視します。その行き着く先が精神の病です。脳と対話し、タイミング良くお風呂に入り森林浴し多様な人と対話ができる病気になるまで。ただし心に圧力をかけている社会の問題を看過してはなりません。利用者は「働くのが下手な人ではなく、休むのが下手な人」だと言われるゆえんです。今回の報酬改定は精神障害のことがまるつきり分かってない官僚の暴挙です。工賃連動、就労継続実績連動。とにかく「働かせよ」です。当法人も質の高い働きかけをしているにも拘わらず経営の苦境にあります。報酬は、利用者が休息タイミングを分けるようになること、それを周囲に伝えられること、気持ちのキャッチボールの対話ができる関係があること、役割・趣味・生活基盤の「生活の質」が向上すること、への働きかけと連動すべきです。当然、職員にもそれが求められます。H・S・サリバンは、職員の資質として、①相手の痛みが分かる、②シャイである、③裏表がない、④挫折体験・被差別体験をもつ、の4つを挙げました。ぜひ皆さんの対話の力で、利用者に労働を強いるだけの歪んだ事業所の方角性を改革し、危機をチャンスに変えていきたいと思います。

社会福祉法人 京都光彩の会

理事長 加藤 博史

若手座談会 ～真面目ガールズトーク♪ この仕事のやりがいとは？～

Chapter.1

いま仕事をする中で 感じていることは？

高瀬 この年齢で「経験しておいた方がいいこと」ってありますか？

梅沢 いろんな経験をすることって大事。仕事以外の経験が支援に役立つことはいっぱいあるかな。

高瀬 面談で利用者さんに趣味や好きなことを聞いていて、逆に利用者から同じ質問された時、すぐに出てこなくて考え込んでしまいました。仕事での経験の中だけだと視野が狭くなってしまう。仕事以外にもいろんな経験を通して、自分の中の引き出しを増やしていけたらと思います。

斎藤 私は一般企業で働いた経験がありません。就労を目指すメンバーさんから相談を受けた時に、自分は直接経験していないので、そのことに引き目を感じることがあります。



Chapter.2

精神保健福祉の 仕事を選んだ理由

梅沢 僕は一般企業を経験してからこの業界に入りました。元々高齢者福祉に興味があり理学療法士が作業療法士（以下OT）になりたいて思っていた。二つの職種の違いについて調べていた際、OTが精神的なアプローチが出来ることを知っ

て魅力を感じた。

斎藤 私の知り合いにうつの人がいて、目に見えない障害に対して子供の頃から何かできないかなと考えていました。目に見えない障害の人への支援をしたいとずっと思っていて、大学を選ぶ時に迷ったけど、福祉学部を選んだのがこの世界に入ったきっかけです。

神野 私はあまり勉強が好きではなかったけど、心理学にはずっと興味があって勉強が続きました。大学3年生になって、周りはみんな就職活動が始めているのに、私は覚悟がでなくて悩んでいました。その時に、社会人として働く前にもっと成長したいと思い大学院へ進学しました。今振り返ると自分にとって院生時代はモラトリアムの時代と言えます。院生の時はスクールカウンセラーをしながら、子どもと遊ぶプレイセラピーを勉強していました。ちょうど大学院の先輩

から西山高原工作所でのアルバイトを紹介されて、プレイセラピーで学んだことが大人の支援にも活かせると思い引き受けましたが、実際に現場を経験する中で、一対一の面談場面やグループワークの進め方で悩むことがあり、勉強の必要性を感じています。

高瀬 昔、祖母が高齢者デイサービスに行っていて、その様子を見る中で福祉の世界に興味が湧きました。大学を選ぶ時には自分の将来を考え何か資格を取りたいと思い、福祉の資格取得を目指しました。漠然とこの仕事は自分に向いているかなというのが選んだ理由です。福祉の世界に身を置いていると、福祉現場で目にするのが世の中の当たり前と違っていましたが、最近友達と話して、福祉の世界は違う世界と思われていることに気が付きました。自分が仕事で経験していることを話すと違う世界

の人みたいに言われて、「これは皆が住んでいる同じ社会で起こっていること」といっても「自分からは遠い世界での出来事」と思われている感じがです。他の人から見るとそんな風に見えるのかと改めて知りました。

ファシリテーター
梅沢 信吾 さん

ワークセッションかれん工房
作業療法士 平成18年入職

最近ハマっていることはバイク。休日は仲間とともにツーリングに出かけている。



Chapter. 3

この仕事の やりがいとは？

斎藤 利用者の些細な変化を感じた時にやりがいを感じます。例えば、これまで体調を崩しがちだった方がいろんなかわりの中で一年間入院しなかったことなど、実際私は何もしてなくて本人の力が大きいけれど、自分の関わりが多少なりともその方の生活にいい影響を与えていたとしたら嬉しいです。

神野 この仕事は人と人との関わりなので、理論だけでは通用しないことがいっぱいあります。院生の時に先生から聞いた「カウンセリングはベテランの先生だからうまくいくわけではない」という話が印象に残っています。院生の方がうまくいくケースがあり、それは一生懸命に接する姿勢が作用しているからだと。自分の関わりがどのように影響を及ぼすか。どう転ぶか、その経験を積み重ねていきます。



取材協力：喫茶S i r a r a（京都市中京区壬生東大竹町21-4）

Chapter. 4

京都光彩の会の 魅力について

神野 京都光彩の会は、法人理念が素敵だと思っています。私が学んできた臨床心理学の「臨床」には、病床に臨むという意味がありますが、まさに「寄り添い」という法人理念にぴったりだと感じています。西山高原工作所の魅力は、些細なことでも立ち止まって一緒に考えられる環境があることです。毎日の出来事が、自分にとってどういう意味を持つのかをそれぞれが考えてゆけるよう、何でもフィードバックし合える関係性を大切にしていきたいです。

斎藤 朱雀工房は、地域のお祭りやイベントによく参加させてもらっています。出店では、作業場面では見られない利用者の新たな一面を見ることができ、新たな気づきを得ることができ、また、地域の方に授

産製品や朱雀工房を知ってもらう機会になり、そこから地域とのつながりができると思いますので、出店の参加は大切にしています。

また、法人内の研修は支援の技術や知識を学べたり、事例検討では支援する上での考え方や視点に新たな学びがあったり、自分の支援を振り返ることができ、日々の支援に役に立っていると感じています。

高瀬 支援センターなごやかでは地域で暮らしている当事者の方や、ご家族、関係者の皆様からのご相談に対応しています。職場内では定期的にミーティングが開催されており、各相談員の状況やケースについて他の方の視点も交えて検討できるところが心強いです。法人全体として統合失調症カフェなどの新たな取り組みも積極的にを行い、多機関連携しているところも特色かと思っています。



斎藤 衣舞 さん

京都市朱雀工房
精神保健福祉士
平成27年入職

最近ハマっていることは旅行。この夏、石垣島を満喫しました。



高瀬 加帆 さん

京都市障害者地域
生活支援センター
「なごやか」
精神保健福祉士
平成27年入職

最近ハマっていることは登山。先日大文字山に登って迷いそうに…。



神野 瑠里子 さん

西山高原工作所
公認心理士
平成30年入職

最近ハマっていることは声優さんのライブとプロレスとそれらに付随するものすべて！



京都市中部障害者地域生活
支援センター「なごやか」

中條了

助論 向谷地生良・著、金剛
出版、2009年

今号の巻頭言を読み、『ベテランの家』の向谷地生良さんが書かれたある一文を思い出した。

正直いって「障害者自立支援法（現：障害者総合支援法）」には、なんともいいようのない「居心地の悪さ」がある。（中略）そこには、国の責任を曖昧にしたまま「民活」に頼ってきたわが国の精神医療の荒廃と同じ構図が透けて見える。それは、本来は精神医療体制が、精神障害を抱えた人たちの治療や社会参加を促進するためにあるべきなのに、いつの間にか、それが反転し「精神科病院を中心とした精神医療体制を維持するために患者は存在し続ける」構図ができあがり、その現状から脱しないまま、同じ過ちを福祉においても繰り返そうとしていることである。（『統合失調症を持つ人の援

著書が出版されたのが10年前。昨今、関係者の方から「利用者が来ない」「安定した利用につながらず経営が苦しい」という声をよく耳にする。現行の制度が「成果主義」により報酬を得るシステムであるため、利用者の獲得と安定した利用が事業所の収入に直結する。

精神障害を抱えた人たちが社会との接点をつくるプロセスは多様であり、時に時間を要する。そのことが現行のシステムでは評価されにくく、時に利用者ニーズとはかけ離れた実績が求められる構図が出来つつある様に感じる。



編集後記

普段、3人とは全く別事業所の面々でなかなかゆつくり話をする機会もありません。今回は、話を聞いて少し緊張した面持ちで話をされていき、時間が経つにつれて色々な話が出ました。3人の話を聞いてみると自分が若い頃にそんなにしつかりした考えを持って働いていたかなと思えました。京都光彩の会も発展し

普段、3人とは全く別事業所の面々でなかなかゆつくり話をする機会もありません。今回は、話を聞いて少し緊張した面持ちで話をされていき、時間が経つにつれて色々な話が出ました。3人の話を聞いてみると自分が若い頃にそんなにしつかりした考えを持って働いていたかなと思えました。京都光彩の会も発展し

（梅沢）

利用者大募集!!

就労 移行支援
就労 継続支援B型

見学
体験利用
受付中

京都市朱雀工房、西山高原工作所、ワークステーションかれん工房では上記の利用者様を募集しています。お気軽にご相談ください。

広報委員会 委員

中林 壮介（西山高原工作所）
中條 了（支援センター「なごやか」）
梅沢 信吾（ワークステーション かれん工房）
高橋 恒明（京都市朱雀工房）
中村 美恵（支援センター「なごやか」）
田上 嘉之（グループホーム 賀陽・山ノ内・光）

利用者と向き合い、寄り添い、共に考え、共に歩む そして誰もが人生の主役に



社会福祉法人 京都光彩の会

Social welfare corp KYOTO kosainokai Inc

〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町30番地 京都市地域リハビリテーション推進センター1F

TEL : 075-813-0501 FAX : 075-813-0520
URL : <http://kyoto-kosainokai.jp>



社会福祉法人京都光彩の会 光彩だより
発行：京都光彩の会 広報委員会
印刷：西山高原工作所